

組合員の共感を得て 生活者視点での政策実現を目指す

ひらこ
平子

ともあき
知明

●自動車総連 政治政策局長

昨年9月に自動車総連に着任し、政治政策局長（政治担当）を拝命した。着任してからの10カ月間で様々なことが起き、目まぐるしく状況が変わる中で自らができることに取り組んできた。

2024年の衆議院議員選挙において与党が過半数割れし、政治情勢が大きく変化した。その中で、ガソリン・軽油の暫定税率廃止が実現した。自動車総連が掲げる政策の一目一番地として長年取り組んできた自動車関係諸税の簡素化・ユーザー負担軽減に向けて、大きな前進であった。実現したタイミングでこの任を偶々務めているが、この前進は過去も含めて実現に向けて携わっていただいた全ての方々による成果である。先輩方が情熱を傾けられご尽力されてきたことに対して、改めて敬意を表し感謝を申し上げる。

自動車は地方における生活の足であり、都市においても旅客輸送・物流等でなくてはならないものである。自動車関係諸税の簡素化・ユーザー負担軽減の実現は、自動車産業や自動車ユーザーにとどまらず、全ての生活者にとって重要な政策だと考えている。産業別労働組合が主張する、ナショナルセンターが主張する、というだけではなく、生活者が「必要だ」「実現してほしい」と共感したからこそ実現したと感じている。自動車関係諸税の簡素化・ユーザー負担軽減の実現に向けては道半ばである。引き続き実現に向けて努力していきたい。

ガソリン・軽油の暫定税率廃止に向けた国会論議では紆余曲折があり、その中で複雑な思いが生まれた。「生活者にとって良い政策なのに、なぜ一刻も早く実現しようとししないのだろうか」と思うこともあった。ただ、最終的に全会派が一致してガソリン暫定税率廃止を成立させたことは非常に良かったと感じている。「生活者にとって良い政策を皆で実現する」という好事例だったと考えている。

私は「生活者視点で何をなすべきか」を軸に政策論議をする必要があると常々思っている。我々労働組合はその視点で政策実現に取り組む必要があり、直接的もしくは間接的にその視点を持って取り組んでいる。「生活者にとって良い政策である」ことを広く訴えて共感を得ることで、組合員を含めた世論を喚起し政策実現につなげる。しかし、「皆に共感を得られているか」と問われると、自信を持って「皆に共感を得られている」とは言い切れない、というのが正直な気持ちである。昨年の参議院議員選挙の結果がその気持ちに至っている根拠である。組合員の共感を得る取り組みが強みであるはずの労働組合にとって、政策実現に向けた取り組みにおいて自省すべき点があると考えている。

労働組合がなぜ政策を掲げ、その実現に向けて取り組むのか。私はその問いに自問自答し続ける。生活者視点を常に意識し、組合員の共感を得ながら、政策実現に向けて今後も汗をかいていきたい。